会長就任のご挨拶

日本野蚕学会会長　小林　淳

このたび、日本野蚕学会の会長に就任することになりました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

創立以来、赤井前会長を中心とした体制で発展してきた本学会の会長職を務めさせていただくことは私にとって大変光栄なことでありますが、受け取ったバトンの重さを痛感しているところでもあります。副会長ならびに役員、事務局の方々の協力を得て全力を尽くす決意でおります。会員の皆様のご支援を心からお願いいたします。

さて、今後の学会の運営に関してですが、「継承」と「発展」という二つの基本方針を掲げ、野蚕および野蚕糸に関心や興味を持つ多様な人々が所属し、幅広い活動と交流を行ってきた本学会のユニークな特色を、引き続き維持し、将来に向けて発展させていきたいと考えております。すでに学会のホームページ、会報および学会誌については、担当者を中心にリニューアルおよび内容の充実などが検討されており、会員の皆さまの活動や学術的成果に関する情報発信の強化と高品質化を通じて、これまで以上に会員の相互理解と国内外での学会の認知度を高めていこうと準備しているところです。また、大会の開催については、コロナ禍により昨年度は中止になり、本年度もなかなか終息の気配が見えない状況のため、本会報でご案内の通り、オンライン方式で開催することとしました。会員の皆様には、ふるってご参加いただきたいと思います。そして、来年度には、事態が好転することを期待して、学術研究の成果発表、シンポジウム、野蚕糸製品などの展示、現地見学を組み合わせたこれまでのスタイルの大会を再開し、異なる分野で活動されている会員の皆さまが集い、野蚕についての学びを深め、交流の輪を広げるための場所を提供しようと計画しております。国際学会についても、開催が可能な状況になった段階で、海外の野蚕関係者との交流再開を祝う記念大会を計画できればと願っております。

さらに、本学会の将来を考えると、現在の会員の皆様にとって有意義な学会であり続けることが重要であることは言うまでもありませんが、新規会員の加入も重要です。若手研究者や学生の学会発表や学会誌での論文発表に対して、奨励賞や論文賞を設けるなど、学会を担う次世代会員を増やす取組みを積極的に進めたいと思います。また、これまであまり交流のなかった異分野からの新規会員獲得の努力も必要であり、そのためにはホームページに加えてSNSによる野蚕および野蚕糸の魅力についての情報発信も有効と思われます。他にもいろいろな方策を講じて新入会員を増やしていけば、現会員との交流による学会の活性化や新たな可能性の発見につながると期待され、それこそが本学会を「継承」・「発展」させていく原動力になると考えております。

最後になりましたが、赤井前会長には心から敬意を表し、今後のご健勝を祈念いたしますとともに、会員の皆様には引き続き本学会の活動にご理解とご支援賜りますよう重ねてお願いして、就任の挨拶といたします。

会長退任に当たって

日本野蚕学会名誉会長　赤井　弘

日本野蚕学会開設以来、長年に渡って会長の任に当たって参りましたが、高齢となり、最近は体調を崩すことも多く、会長の職を退任させていただきます。

この間、私の繭糸の構造の研究の中で、1989年に天蚕とサクサンの繭糸断面の電顕による観察から、これら両者とも繭糸のフィブロインの中に多数の大小の小孔が観察され、詳細に学会誌に報告しました。これらの結果から、繭糸はフィブロイン中に多数の小孔を含む“多孔性繭糸”と、含有しない“緻密性繭糸”が存在することが明らかになりました。さらに、その後の観察から前者内の小孔は後部糸腺細胞のリソソームに由来することが判明しました。さらに、多孔性繭糸はヤママユガ科に属する昆虫からしか生成されず、他の昆虫はすべて緻密性繭糸であることも明らかになりました。繭糸の切片から繭糸中の空間率を計算すると種間で大きく異なりますが、高いものではアゲマ・ミトレイの27%が最も高く、クリキュラでは20～23%程度でありました。このような高い空間率のシルクは布にすれば暖かく、高齢者や乳幼児などには保温性などから健康衣料として今後広く必用とされるものと考えられます。

地球上には上述の巨大なアゲマ・ミトレイのような健康シルク資源が未開発で残されているものと思われます。これらから健康衣料を作り、着用試験をしたいものです。シルクは美しい高級な衣料だけではなく、最も健康な天然素材であることを知っていただき、同時に広く着用していただきたいと思います。

会員の皆様方にはたいへんお世話になり厚く御礼申し上げます。皆様のご盛栄を願うとともに、本学会の益々の発展のためにご支援いただければ幸いです。

赤井名誉会長と日本野蚕学会・国際野蚕学会の歩み

1986年4月　「野蚕研究会」設立。会長就任。以後、1994年まで総会9回を含む野蚕研究集会を27回開催。

1988年7月　カナダのバンクーバーで開催された第18回国際昆虫学会において野蚕シンポジウム開催。国際野蚕学会設立合意。会長就任。

1989年　"Wild Silkmoths '88" を編集・発行。以後、"Wild Silkmoths '91" まで計4冊を発行。

1990年8月　中国瀋陽において第1回国際野蚕学会開催。以後、7回の国際野蚕学会と7回の国際野蚕シンポジウム・ワークショップ開催。

1993年9月　「野蚕研究会」を日本学術会議の学術研究団体として登録。

1994年9月　「野蚕研究会」を「日本野蚕学会」と改称。

"International Journal of Wild Silkmoth & Silk" 創刊。2020年までに22巻（計24冊）を発行。

2021年3月　日本野蚕学会会長退任。名誉会長。

（事務局取りまとめ）